

# ○監獄法運用ノ基本方針ニ関スル

件 〔昭和二二・一・四〕  
〔刑政甲一〕

行刑ハ对人的の現業的の関連ナル点ニ鑑ミ此方運営ノ当否ハ直ニ人權並ニ公安ニ影響スルトコロ尠カラザル關係上一般行政事務ト異リ法令制度ノ整備ヲ以テ足レリトセズ常ニ動的狀態ニ対応シ嚴肅公正且ツ組織的ニ遂行セラルベキハ勿論ニシテ之方原理ニ付テハ予テ不断ニ考究セラレ来リタル次第ニ有之候処右ハ直接之方運用ノ衝ニ当ル刑務官ニ於テ不断ニ法令通牒ノ解明ニ努メ其ノ基本的精神ヲ正確ニ把握スルコトニヨリ達成セラルベキモノニシテ固ヨリ從來ノ行刑運用ニ指摘スベキ過意アリタリトハ思料セラレザルモ未ダ現状ヲ以テ十分ナリト思惟シ難ク特ニ戦後ニ於ケル思想混亂ノ現状ニ照応シ飽迄行刑ノ基本的精神ヲ恪遵スベク万一世論ノ動向ニ銜惑セラレ又ハ感情ノ好悪ニ依リ其ノ根底ニ動搖乃至更改ノ加ヘラルルガ如キ事態ヲ惹起スルニ於テハ延テハ行刑ノ權威ヲ失墜シ多衆ノ怨嗟ヲ招来スベキハ必然ニシテ悔ヲ将来ニ貽スコトト可相成此ノ際確固タル方針ノ下ニ公正妥當ナル運営ヲ図ルハ極メテ緊要ノコトト思料候ニ付テハ別紙基本方針ニ則リ行刑ノ万全ヲ期スルト共ニ刑罰ノ嚴肅性ヲ確持スル他面濫ニ人權ヲ侵害スルガ如キ輕率無之様部下職員ヲ篤ト督勵シ職務教導ニ万遺憾ナキヲ期セラルル様特ニ御配意相成度此段及別紙通牒候

## 監獄法運用ノ基本方針

第一 凡ソ刑務官ノ把持スベキ精神ハ犯罪、犯罪者、刑罰及其ノ作用ニ対スル実証的研究並ニ公正ナル社会与論ニ基礎ヲ置ケル不断ノ反省ニ拠リテ構成セラルベキモノニシテ抽象的、個人的の思議ト是ニ依ル偏見ニ趨リテ受刑者ノ処遇ヲ實現スルガ如キハ行刑当面ノ对人的の具体的關係ニ対シ惡影響ヲ及ボスモノナルヲ銘記スベシ。徒ニ世論ニ惑フコトナク常ニ兢々トシテ日夜仁愛ノ至情ヲ傾ケ以テ受刑者ノ道義的の更生ニ勞スル事ヲ要スルナリ。「獄トハ何ゾ人ヲ仁愛スル所以ニシテ人ヲ殘虐スル者ニ非ズ、人ヲ懲戒スル所以ニシテ人ヲ痛苦スル者ニ非ズ」トハ我

ガ旧クシテ且ツ賢明ナル行刑精神ノ伝統ナリ。未決拘留者ノ処遇ニ於テハ其ノ拘禁ガ一ニ裁判審理上ノ必要ニ基ク已ムヲ得ザルモノナル点ニ思フ致シ被拘禁者ノ名譽其ノ他人權ノ保護ニ留意シテ拘禁ニ依ル不自由ヲ能ウ限リ緩和シ以テ本人ニ対スル拘禁上ノ惡影響ヲ防止スルニカムベシ。

第二 行刑ノ精神ニ基キ刑務所ノ諸種ノ組織ハ次ノ三個ノ原理ニ依リテ此ヲ運営スルコトヲ要ス。

(イ) 人權尊重ニ関スル原理——受刑者ハ自由ヲ剝奪セラルル外生命、身体、財産等ニ関シテハ其ノ固有ノ權利ヲ失フモノニ非ザルヲ以テ偏見ヲ去リ煩瑣ヲ厭ハズシテ此等ノ權利ヲ尊重スルコトヲ要ス。加フルニ行刑目的ニ背反セザル限度ニ於テ受刑者ニ処遇ニ関スル意見、陳述スルノ機會ヲ認ムルコトハ臆テ受刑者ヲシテ道義上更生ニ至ラシムベキ基礎ヲ為スモノナリト謂フベシ。然レドモ此ノ原理ハ又節度ヲ失ヘル受刑者ノ要求ヲ容ルベキ何等ノ口実ヲ提供スベキモノニ非ズ。斯ル事案ニ付テハ其ガ正当ナル權利ノ行使ニ非ザルコトヲ本人及關係者ニ知悉了得セシメ苟モ将来ニ誤解ト紛糾ヲ生ズルコトナカラシムルヲ要ス。

(ロ) 更生復帰ニ関スル原理——本人ノ道義的の社会的の更生ヲ期待スルハ独リ其ノ正常ナル人間性ヲ啓発シテ本人及其ノ家族ニ幸福ヲ齎ラスニ止ラズ延テハ健全ナル社会ノ確立ニ寄与スルモノナルヲ以テ之ニ関シテハ処遇上諸種ノ手段ヲ講ジ以テ道義的の更生ニ対スル本人本然ノ関心ヲ喚起スベシ。然レドモ其ノ促進手段ハ累進処遇其ノ他制規ノ手段ニ準拠スルヲ要ス。其ノ手段ニシテ仮令個別的のニ有効ナリト思惟セラルル場合ト雖モ人權尊重ノ原理ニ悖ルガ如キモノ例ヘバ体罰ノ如キハ嚴ニ之ヲ禁ズベキナリ。

(ハ) 自給自足ニ関スル原理——受刑者ハ自ラノ勤勞ニ

依リテ必要ナル衣食ノ費用ヲ補填スルヲ本則トス。苟モ国民ノ負担ニ於テ健康ナル受刑者ヲ無為徒食セシムルガ如キハ刑務官ノ怠慢ト為スベク又固ヨリ本人ノ倫理的經濟的義務ニ反スルモノニシテ当局ノ十全ナル作業經營ノ下收容ノ費用ト作業ノ収入トハ常ニ対照セラレベク前者ハ後者ニ依リテ補填セラレベキナリ

第三 逃走ハ一般国民社会ヲ脅威スルノミナラズ行刑ノ基礎的要件タル隔離ノ効果ヲ抹殺スルモノナレバ嚴ニコレヲ防止セザルベカラズ。其ノ防止策ハ逃走一般ノ原因及情況ニ徹底的究明ヲ加ヘ其ノ結果ニ基ク賢明ナル合理的方法ニ依ルベキモノニシテ単ニ逃走ノ防止ニ急ナルノ余リ無方針ニ物的手段ヲ講ズルガ如キハ一般行刑ニ惡影響ヲ招来スルノミナラズ行刑活動ノ浪費ト謂フベキナリ。人格考査ノ徹底、警備員ノ適正配置、物の設備ノ検討等ヲ基本トシ更ニ全行刑組織ノ活動ニ依リ受刑者ノ心情ヲ個別的ニ查察把握シ以テ早期ニ其ノ原因ヲ芟除スルノ方途ヲ講ズルト共ニ遡ツテ受刑者ノ生活ニ精神的平安ヲ与フルニ努ムベキナリ。

第四 適正ナル給養ヲ与ヘ、疾病ヲ予防シ罹病者ノ治療ヲ為シ以テ收容者ノ健康ヲ保全スルハ国家当然ノ義務タルト共ニ又スベテ拘禁生活ニ在ル者ノ最大関心事ナリ。之ヲ無視シ其ノ措置ニ於テ怠慢ナラムカ行刑一切ノ効果ハ殆ンド皆無ニ歸スルノ危機ヲ包蔵ス。特ニ給養ニ関シテハ一般社会ノ最低生活水準トノ均衡ヲ確保スベキモノナリト雖モ拘禁生活ニ於ケル給養ノ著シキ悪化ハ自由刑ヲ生命刑ニ變ズルノ虞アル実情ニ鑑ミ適正給養ノ確保ニ努ムベキモノトス。

第五 道義的、社会的更生ノ目標ハ共同生活ニ於テ強固ナル責任感ヲ有スル勤勞者農民ノ育成ニ存ス。此ノ目標ヲ達成スベキ行刑ノ諸活動ハ人格考査制度、分類及累進制並ニ本人ノ復歸スベキ社会環境ニ対スル配慮ヲ中心トスル組織の運営ニ依リ実施セラレベク就中累進処遇ニ於テハ之ニ職業訓練、生活訓練、自治的訓練其ノ他教育ノ実體ヲ有機的ニ結合セシムルノ努力ヲ吝ムベカラズ。而シ

テ此等ニ関スル行刑ノ諸活動ハ絶エザル反省ノ下ニ運営セラレベキモノニシテ例ヘバ累犯予測ニ関スル諸調査ノ結果ノ如キハ行刑ノ實際ニ之ヲ反映セシムルノ努力ヲ怠ルベカラズ。

第六 受刑者ハ其ノ大半ニ於テ宗教的情操ヲ欠ク。新生日本建設ノ一礎石ハ宗教的情操ヲ涵養シ眞実ナル人間性ヲ認識啓發セシムルニ存スルコトヲ銘記シ宗教教誨ヲ更ニ拡充シテ行刑所内ニ広ク宗教家ノ活動ヲ期待シ潑刺タル道義更生ノ氣風ヲ馴致スベキナリ。

第七 受刑者ノ作業ハ国家ニ於テ其ノ勞働力ヲ直接ニ管理スルモノナル点ニ鑑ミ国家ノ直接ニ要求スル方面ニ於テ經營セラレベキモノトス。即チ現下ニ於テハ民力ノ涵養ニ対スル寄与ヲ第一トス。

刑務作業ニ依ル勞働又ハ物品製作ハ新ナル職場ヲ開拓創設スルガ如キ方向ニ於テ之ヲ經營シ以テ間接ニ民業ヲ殷盛ナラシムルコトニ奉仕シ得ルガ如キ形態ヲ理想ト為ス。之ニ反シ民業ヲ不当ニ圧迫シ又ハ民間勞働力ヲ不当ニ圧迫スルガ如キ事態ヲ惹起スルガ如キハ嚴ニ之ヲ戒慎スベキモノトス。

第八 釈放時ニ於ケル一時保護ハ刑務所ヨリ一般社会ヘノ連繫ヲ円滑容易ナラシメ本人ノ道義的更生ガ社会生活ニ於テ保持セラレルノ端緒ヲ為スモノナリ。即チ懇篤ニシテ慎重ナル各般ノ配慮ヲ為スコトニ依リテ刑務官ノ本人ニ期待スルトコロヲ充分ニ知悉セシムベキモノナリ。

第九 行刑ハ对人的具体的關係ナルヲ以テ刑務官ノ教養ハ之ヲ行刑組織ノ基本トナスベキナリ刑務官ノ資質ハ明智ニ裏付ケセラレタル豊カナル人間的情操ニ由ルトコロ極メテ多シ從テ教養ヲ管掌スル幹部官吏ハ此等諸点ニ留意シ不斷ニ其ノ教養ノ向上ニカムルコトヲ要ス。

第十 刑務所ノ性格ハ刑務所長ノ性格ニ依リテ決スト謂フベシ。所長ハ自己ノ品性人格ヨリスル影響力ニ付慎重ヲ怠ラズ其ノ行刑運営ニ当リテハ広ク民間有識者ノ意見ヲ参酌スル等視野ヲ広メテ独善ヲ排シ他面又苟モ其ノ所信ニ付テハ之ヲ断行スルノ氣魄ヲ保持スベキモノトス。